

聴き合い、学び合う保育・授業をめざす保幼小中の連携

西大寺中学校区12校園(保幼小中)

活動の目的

1 ねらい

「0歳から15歳までの子どもたちの学びを保障する」中学校区12校園の取り組みも10年目を迎えた。近年は、「協同学習」というプラットフォームを共有することで、「聴き合い、学び合う保育・授業」を推進してきた。本年度は、相互に研究会に参加するなど、より連携を深め、「協同学習」の定着と深化を図った。

2 期待する成果

「協同学習」の理念を共有し、実践することで、「聴き合い、学び合う」、そして、仲間同士のつながりや安心して依存し合う関係の中で、意欲的で主体的に学ぶ保育・授業の実現を期待する。

活動の内容及び経過

1 12校園合同研修会

(1) テーマ：聴き合い、学び合う保育・授業の創造

(2) 期 日：平成29年7月28日 13:00～16:50

(3) 会 場：西大寺ふれあいセンター

(4) 参加者：12校園の教職員

(5) 講 師：根本光子氏（つくば市立並木小学校元校長）

(6) 内 容：講演では、「主体的・対話的で深い学び」には、安心して間違えたり、支え合ったりする集団と没頭できる学習課題の用意された授業が重要であることや授業研究の意義について学んだ。その後、各教科・分野に分かれて班別研修を行い、各自の実践の中で感じる困り感や達成感を交流することができた。

2 各校園の取り組み

(1) 雄神小学校・雄神幼稚園

小学校では、研究主題「考える力や表現する力の育成をめざして」をめざして、全学年算数での授業研究を行った。その中で、近藤弘行先生（岡山大学教育開発センター特任教授）を、外部講師として招き、年3回の公開授業を実施した。同テーマでの研究3年目となる今年度は、「効果的な話し合いのなるための支援の工夫」に重点を置き、各担任がクラスの実態、単元に合わせて話し合いのタイミング、話し合いのやり方、まとめ方を工夫して取り入れた。「話し合いカード」「意思表示カード」「ホワイトボード」「ワークシート」等を取り入れながら、意味のある話し合い活動を実践しようとして研究し、互いにそのやり方を学び合うことができた。児童も、自分の言葉で話したり、友達のを聞いて考えたり、一緒に考えることで考えを深めたりすることができるようになり、一定の研究成果が見られている。今後は、6年間で通じて系統立てた話し合いの指導方法や他教科での話し合い指導に視点を当て、研究を進めていきたい。（小学校）

一人一人に寄り添った保育に心がけ、聴きたい、やりたい、おもしろそうと興味をもって取り組めるような教師の言葉のかけ方、話し方を工夫することで、幼児の心が揺さぶられ、人の話を興味をもって聴くことができるようになってきた。（幼稚園）

(2) 西大寺小学校・西大寺幼稚園・西大寺保育園

「一人一人の思いや願いから学び合いの授業が生まれる授業を目指して」を研究主題として、小集団の学びの在り方を中心に研究を行い、公開授業を7回実施した。学び合いが生まれるためには、児童が夢中になれる課題があって生まれることから導入やジャンプ課題を工夫した。適度に難しいジャンプ課題を設定すれば、夢中になって解決方法を探り、分らなければ強要しなくても相談が始まり、話し合いがたいなる状況を作ることができるのではないかという仮説のもと、授業づくりを行った。そのための効果的な指導・支援の方法・児童への対応の仕方についても合わせて研究を深めていった。（小学校）

友達とかかわる中で、互いの思いや考えを伝え合いながら充実感をもって遊びを進めていくことができるように、それぞれの発達にふさわしい環境構想や援助を探っていた。（幼稚園）

公開授業・研修会に参加することで「学びのあり方」について考える機会になっている。幼児においては、「協同あそび」や「朝の好きなあそび」の中での保育者のあり方を考え資質の向上を図っている。（保育園）

(3) 西大寺南小学校・西大寺南幼稚園・金岡保育園

小学校では、研究主題を「思いや考えを伝え合い、高め合う子どもの育成～楽しく豊かな学級・学校生活をめざして～」と設定し、全学年で特別活動の研究に取り組み3回の公開授業を実施した。学級会の話し合い活動を通して、集団決定をしたりする合意形成の力を養う活動を行ってきた。また、話し合いのステップの共有や話し合いの流れを可視化し分かりやすくするための板書の工夫について研究を進めた。議題選定については、異学年交流の活動の話し合いも取り入れ、一人一人が相手意識や思いをもって話し合いに参加できるように支援の工夫について研究してきた。

低学年では、生活科の「昔遊びをしよう」の学習で、地域のお年寄りから教えてもらった昔遊びを、幼稚園や保育園の園児と触れ合いながら教える



という活動を行った。本校園は小規模であることから縦割り活動も多く、異学年と交わって遊んだり、活動したりする機会も多い。異学年交流を通して自分の思いを伝え合う経験をした児童や園児は、さらに自信をもって伝え合いをしたいという意欲をもつようになると考えられる。

(4) 豊小学校・豊幼稚園・豊保育園

研究主題「基礎基本の定着を図り、学び合う子どもの育成」をめざし、全学年で算数科の研究に取り組み、公開研究授業を2回実施した。学び合いをうも手立てとして「学びあ～い図」を作成して取り組むことで、学び合いを意識した授業づくりをすることができた。研究主題にせまるための手立てとして、ペアタイムやグループタイムでの話型の提示や考えを共有するための工夫などについても話し合い、研究を深めた。基礎基本の定着を図る取り組みについては、朝学習や週末プリントの取り組みを続けることにより、基礎学力が定着している児童が増えてきている。（小学校）

幼児が意欲的に遊びに取り組んだり、興味をもった遊びに粘り強く取り組んだりする中で、主体性や自己肯定感などが育まれ、学びに向かう力につながっていくと考え、幼児一人一人の実態を把握し、個々の発達に応じた援助のあり方について探っていた。（幼稚園）

「保育園って楽しい!」と喜んで登園し、「やってみよう」と思い、意欲的に遊びに取り組む中で、思いを伝えあったり、友達と力を合わせたりできるような、環境構成や援助の仕方を探っていた。（保育園）

(5) 西大寺中学校

各学期に公開授業研究会を行っている。スーパーバイザーとして佐藤雅彰氏（元富士市岳陽中学校校長、佐藤暁（岡山大学大学院教育学研究科教授）を招き、助言いただいた。授業を見る視点や対話を生み出す工夫など学んだ。その中で、対話を優先するあまり、必要の無い活動も見られたことなどの指摘もあり、対話が深い学びにつながっていくための授業改善の在り方について振り返ることができた。また、特別支援教育の視点から、教師の説明の仕方や伝え方、作業がうまくできない子どもの特性と支援についての理解を深めることができた。参観者も交え研究協議をすることで、様々な視点からの授業分析をすることができた。

活動の成果・効果

各校園の公開保育・授業、研究会に相互に参加することで、それぞれの段階での子どもの学びの実態を知り、具体的な課題を共有することができた。また、小中で共通のスーパーバイザーに指導をいただくことで「協同学習」の視点での授業を分析し、同じ方向性で授業改善に取り組む足がかりを得ることができた。

今後の課題と問題点

「聴き合い、学び合う」保育・授業の実現にあたり、子どもたちの「表現する力」「伝え合う力」をどう育てるかが課題である。本年度、各校園で様々な実践が試みられたが、その成果を共有するとともに、「協同学習」を基盤とした一貫した取り組みが重要である。

- 代表者：矢部清吾 ●所在地：岡山市東区西大寺上
- TEL：086-942-3818
- E-MAIL：saidaijic@city-okayama.ed.jp
- URL：http://www.city-okayama.ed.jp/~saidaijic/